

教科等研究会（小学校図画工作部会） 令和6年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

つなぐ・つながる造形教育

～自信をもって、意欲的に表現活動に取り組む児童生徒の育成～

～児童生徒が安心して制作できる題材と授業展開の工夫～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
6/7	26人	龍野小学校	8/1	龍野小学校	実技研究会「木版画」 授業研究会	11/7	広安西小学校	木下 雅子 教諭	1/23	嘉島中学校	野口 良美 教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① テーマについて

本年度の上益城郡教科等研究会全体テーマ「児童生徒一人ひとりが輝く『分かる・できる』『楽しい』授業づくり」を受け、一昨年度・昨年度に引き続き、図画工作科の特性を生かしてより具体化した研究を進めていくことにした。図画工作科の目標は、「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成すること」を目指している。しかし、図画工作科の授業において、「不器用だ」「不得意だ」と苦手意識をもって過ごす子どももいる。そのような子供たちも全員が参加でき、理解し、習得し、活動していくことができるようにすることが求められる。そのため、授業のUD化の視点を持ち、「焦点化」「視覚化」「共有化」を図り、「自信をもって、意欲的に表現活動に取り組む児童の育成」「児童が安心して制作できる題材と授業展開の工夫」を研究していくこととした。

研究の視点として、以下の3点を挙げ、研究に取り組んだ。

- (1) 児童生徒が自信をもって制作に取り組める題材の工夫
 - ア 児童生徒の発想・構想が生かされる題材の工夫
 - イ 失敗を恐れず制作に取り組める題材の工夫
 - ウ 児童生徒の実態に応じた教材の設定の工夫
- (2) 児童生徒が自信をもって制作に取り組める授業展開の工夫
 - ア 分かりやすい授業展開の工夫
 - イ 児童生徒が見通しをもつことができる授業展開の工夫
- (3) 自分の思いを表現できる、自由に言える人的環境や学習空間づくり

② 実技研修

実技研修会では、指導者として図工指導の幅を広げるために、木版画制作を行った。講師として熊本県「版画の会」の宮崎不二男先生を講師に招き研修会を行った。木版画制作の手順から各工程のポイント、様々な技法等を細やかに提示していただき、授業づくりの際の手立てを具体的に考えることができた。会員は、同じ下絵でも、表現方法によって作品への感じ方が変わることを、互いの作品を鑑賞しながら学んでいくことができた。



宮崎不二男 講師

③ 授業研究

本部会では、小学校・中学校合同で2回の研究授業を行った。

【小学校での研究授業】

広安西小学校 木下 雅子 教諭 第3学年 「すきな色で すてきな花を」表現

【中学校での研究授業】

嘉島中学校 野口 良美 教諭 第2学年 「環境とともに生きる彫刻」表現

(2) 成果と課題

- 実技研修では講師を招き、制作を体験しながら具体的な指導の手立てを考えることができた。図工指導の視点の幅を広げるきっかけをつくることができた。
- 授業研究会では、教材との出会わせ方、目的意識のもたせ方など、児童にとって分かりやすく、ワクワクする取り組みをすることで、すべての児童の学ぶ意欲につながった。
- 制作途中に相互鑑賞の時間を設けることで、児童は表現の幅を広げたり自信をもって表現したりする姿が見られた。
- △ 評価において、児童の実態や発達段階を踏まえた目標を設定する際は、それに応じた具体的評価基準を明確にする必要があった。表現領域の単元であったが、必要に応じて造形遊びの要素を加えた評価にすることも可能であることを学ぶことができた。

4 実践事例

(1) 実践報告の概要

【小学校での研究授業】 広安西小学校 木下雅子 教諭 第3年4組

図画工作科 「すきな色で すてきな花を」表現

本題材は、自分の作った好きな色や形で想像した花を絵に表す活動を通して、材料や用具の使い方によって変化する色や形等の面白さに気付き、材料から自分の表したいことを見付け、さらに自分のねらった表現に近付けようと試行錯誤を繰り返すことで、図画工作に必要な創造力を養っていく題材である。

本時では、導入時に前時に見つけた色や形などを絵や言葉で共有し、自分だけの「世界に1つだけの花」を生み出し表現する意欲付けを行った。

展開では、児童それぞれが試行錯誤をする時間を十分に確保し表現させた後、相互鑑賞の『お散歩タイム』で友達の表現のよさや面白さを味わわせ、新たな視点を引き出させた。「どうしてこの形にしたの?」「どうやってこの色を作ったの?」など、互いに質問をさせることによって、表現方法を学び合ったり、イメージと形を結び付けて考えたりするなど学びを深めていった。相互鑑賞後の表現の時間は、全員が制作に没頭し、時間になってもまだまだ描きたいという児童がたくさんおり、意欲が更に高まった姿がみられた。一人でなかなか描くことができなかった児童も、相互鑑賞後には自分で表したいものを描くことができていた。

終末では、学級全体で作品を紹介し合う時間を設定した。友達の作品を紹介して、自分がないよさを見つけ出し、それぞれの個性がにじみ出た作品を認め合った。

このような多くの工夫を取り入れ「どの子も楽しく」参加できる授業を展開していった。



これまでの学びを共有し、
制作の意欲を高める導入



自分や友達の作品のよさにふれる
『お散歩タイム』(相互鑑賞)



(左)パレットの上で何度も色づくりをする児童
(右)相互鑑賞後に花びらを追加する児童

(2) 学習構想案 (一部抜粋)

第3学年4組 図画工作科 学習構想案

日時 令和6年11月7日(木) 第5校時

場所 3年4組教室

指導者 教諭 木下 雅子

1 題材構想

題材名		「すきな色で すてきな花を」 (絵 (表現))	
題材の目標		(1) ・すてきな花を表すときの感覚や行為を通して、形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどが分かる。 ・水彩絵の具を適切に扱うとともに、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。 (2) ・すてきな花を想像したことから、表したいことを見つけ、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考える。 ・自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。 ・形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどを基に、自分のイメージをもつ。 (3) ・進んですてきな花を想像して表す学習活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに形や色、材料などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。	
題材の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	① 好きな絵の具を選び、身のまわりにある花を絵に表すことを通して、表れる形や色などの感じがわかり、表したい感じに合わせて、絵の具の色の組み合わせや筆の動かし方を工夫して表す。	① 花の形や色、においなど、感じたことをもとに自分の表したい花の形や色を見つけ、どのように表すか考え、絵の具の色の組み合わせ方や筆の動かし方の工夫によって表れる形や色などのよさを感じ取り、自分の見方や感じ方を広げる。	① 描く心地よさを味わい、好きな色で花を絵に表す学習活動に進んで取り組む。
題材終了時の児童の姿			
自分の想像したことや表したいことに合わせ、色や形を選んで表現したり、作品のよさや面白さを伝え合ったりする活動を通し、つくりだす喜びを感じるとともに、自分自身や友達のよさに気づき、思いや想像を大切にする児童。			
題材を通した学習課題		本題材で働かせる見方・考え方	
すてきな花の感じに合った色や形を考え、工夫して絵に表しましょう。		感性や想像力を働かせ、材料に触れたり形や色などの感じについて考えたりしながら自分の表したいことに向かい、新たな見方や感じ方を広げること。	
指導計画と評価計画 (時間取扱い 本時2/3)			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	1	○花のイメージを自分で考え、全体で出し合う。 ○色、形、など気づいたことを出し合い、絵に表したい花の形や、色の感じを考える。 ○絵の具道具の使い方や、筆の使い方を知りながら、自分の持つ花のイメージでかく。	★【態①】(観察) ○描く心地よさを味わい、好きな色で花を絵に表す学習活動に進んで取り組む。
二	1 本時	○表したい花のイメージに合わせて、好きな色の絵の具と筆で表す。	★【思①】(観察・作品) ○花の形や色、においなど、感じたことをもとに自分の表したい花の形や色を見つけ、どのように表すか考えている。 ★【知①】(観察・発言・作品) ○表したい花の感じに合わせて、絵の具の色の組み合わせや筆の動かし方を工夫して表している。
三	1	○できた作品のよさや面白さ、表したいこと、表し方の工夫を感じ取り、伝え合う。	★【思①】(ワークシート・発言) ○色の組み合わせ方や、筆の動かし方の工夫によって表れる形や色などのよさを感じ取り、表し方の違いや美しさに気づき、表現の見方や感じ方を深めている。

4 本時の学習

(1) 目標 自分の表したいものに近づくよう、色や形を考え、工夫した表し方を見つけること。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	5分	<p>1 課題をつかむ</p> <p>① 課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【学習課題】 色や形や組み合わせをくふうして「すてきな花」を表すことができる。</p> </div> <p>② 見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までの活動を振り返り、自分のイメージをじっくり考える。 ◇ある。もっとかきたい。何をかこうかな。 ◇やわらかい感じが出るように、もっと丸くしよう。 ◇力強いイメージを表すために赤でかこう。 ◇色をうすくするとやさしい感じが出るかも。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【めあて】「新発見！世界に1つだけの花」を工夫してかくことができる。</p> </div>	<p>○前時までに申し合った花のイメージを出し合う。(電子黒板で花の写真を提示し、黒板に貼り、ふり返る。)</p> <p>○感性や想像力が広がるよう、いろいろな花のイメージを言葉で提示する。</p> <p>○前時までの活動から、付け加えたり、新しいイメージがあったりしたときは、入れてもいいことを伝える。</p> <p>○花以外のものや背景などを描くかどうかは、自由に決めてよいことにする。</p>
展開	35分	<p>2 課題の解決に向けて活動する。</p> <p>① 自分で考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水彩絵の具の生かし方について考える。 ◇なめらかな感じが出るようになみなみでかこう。 ◇葉は濃く描いてみよう。 ◇点で表してみよう。 ・色や形について考える。 ◇もっと丸みを帯びたようにしたい。 ◇たくさん色を使って、にぎやかにしたい。 ◇やさしい感じがでるようにうすくかこう。 <p>② 学級全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おさんぽタイム 友だちのいいところを見つけよう」 ◇この形がいいね。この色がいいね。組み合わせがおもしろいね。 <p>③ 全体で見合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表する。 ◇その形にした理由が分かった。 ◇もっと丸くするといいかも。 <p>④ 花の絵の続きをかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇形をつけくわえてみよう。 ◇色をふやしてみよう。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【期待される学びの姿】 水彩絵の具での表し方の工夫を考えるとともに、形や色等についても創意工夫して表そうと考えを深めている。</p> </div>	<p>○前時までに持ってきた色や形のイメージを確認し、意欲を高める。</p> <p>○2種類の大きさの画用紙を準備し、児童が選択できるようにする。</p> <p>○友達との交流から変化を加えたい部分を探せるようにする。色や形等、より自分の表したい作品に近づけていく。</p> <p>○工夫が見られる児童の作品を取り上げ、工夫している部分を具体的に実感させ制作意欲を高める。</p> <p>○花に名前をつける</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【具体的評価規準】</p> <p>思① (方法：観察・作品) 花の形や色、においなど、感じたことをもとに自分の表したい花の形や色を見つけ、どのように表すか考えている。</p> <p>知① (方法：作品) 表したい花の感じに合わせて、絵の具の色や組み合わせや筆の動かし方を工夫して表している。</p> </div> <p>【到達していない児童への手立て】</p> <p>○何を工夫すればよいかわからない児童に対しては、花の写真を見せたり、他の児童作品を見せたりして、形・色のどれか一つでも、工夫を考えてみるよう声をかけ、想像しやすくする。</p>
終末	5分	<p>3 学習課題に対する感想を出し合い、めあてに対する振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇理由に合った色や形を選んだら、自分のイメージに、はつきりしてきた。 ◇どんな花を描きたいかが分かった。 	<p>○各自の自由な発想を大切に振り返りを行う。</p>